

# 令和6年度 半田市総合計画市民評価委員会 議事録

開催日時	令和6年10月22日(火)	10時30分~12時00分
開催場所	半田市役所4階 会議室402	
会議次第	<b>【議題】</b> <b>第4章 基本施策3「都市基盤」</b> (1) 所管課長説明 (2) 質疑 (3) 評価	
出席委員	(委員長) 千頭 (座長) (委員) 沢田(勉)、小柳、曾根、杉本、伊藤 ※敬称略	
事務局	企画課長、企画課(斎藤・倉野・武田)	
出席職員	土木課長、上水道課長、下水道課長、都市計画課長	
<b>議事概要</b>		
(1) 所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(土木課長)	
(2) 質疑	<p>(委員) 水道経営について、評価表の下の注釈に“水道事業を運営するために必要な費用が水道料金などの収益によって賄われている割合を表す指標であり、公営企業として100%以上が望ましい”と記載があり、現状として水道給水収益は減少しているものの、「水道経営の安定度」は100%で保たれているのに、評価表の課題部分に水道給水収益の減少と記載してあるのはなぜか。</p> <p>(上水道課長) 経営指標については、経常収支比率という指標で示している。収入を1年の水道事業の費用で割ったものになっており、100%以上であれば黒字経営ということになる。水道事業の収入として大きく割合を占めているものが水道料金の給水収益であり、この収益が下がってくると、経常収支比率も徐々に悪化していくことになる。 平成30年頃は、120%であったが、令和3年度114%、令和4年114%、令和5年は108.99%と年々減少傾向にある。 人口減少に伴い、給水による収入が減少してきていることが課題と捉えている。</p> <p>(委員) 金額面で半田市の料金が知多半島の市町と比較して高いのか、安いのかを知りたい。また、水道料金を上げることで、収益は見込まれると思うが、料金を値上げすることで、市民にどのような影響が出るのか。</p> <p>(上水道課長) 水道料金は、基本料金と使用料金を合算したもので算出しており、半田市の料金は一般家庭で算出すると愛知県内で3番目に安く、知多半島内では1番安いことになる。 経営状況としては、これまで利益が上がっていた部分を積み立てながら新たな投資として基幹管路の耐震化へ充てており、耐震化は県内トップ、88.5%耐震化が完了している。 さらに、避難所などの重要給水施設の耐震化は既に完了しており、地震が起</p>	

きても、配水池から給水できるようになっている。これも県内トップとなっている。収益を貯めながらも、新たな投資に回したことで耐震化が概ね完了しているが、今後は管路の老朽化が進んでいるので、そちらの費用に充てていきたいと考えている。現在の県内トップの料金の安さでは、今後の経営状況に影響が出るのが懸念される。

主に半田市は愛知県から水を仕入れているが、愛知県が水の値段を今年度から値上げをすることになっている。本市では、業務の効率化を進めているものの、現状の水道料金では持続可能な水道経営ができなくなってしまうため、適正な金額で料金改定を検討しているところである。

(委員)

現状、水道経営の安定度は維持されているが、愛知県の水が値上がりすると、経常収支比率は100%を下回るということか。

(上水道課長)

財政計画として、中長期計画を立てており、3年先やその先を見据えるなかで、具体的な年数はお答えできないが、ここ数年で赤字になる、つまり100%を下回ることが予想される。

(委員)

今回の内容を市民の皆さんに説明しながら、値上げの必要性を説明していけば、全員が賛成ということは難しいとは思いますが、概ねご納得いただけるのではないかと考える。

下水道について、未接続世帯に対して、戸別訪問を実施し、接続してもらっているとのことだが、現状、まだ接続していない世帯はどのくらいあるか。

(下水道課長)

接続率は、昨年度末現在で88.6%の方に接続していただいております、残りの11.4%が未接続ということになる。世帯数でいうと約6,000世帯である。今後も戸別訪問や電話などで接続をお願いしていきたいと思う。

(委員)

下水道への接続に関して、法的な義務はあるか。

(下水道課長)

罰則はないが、法的な義務はある。

下水道に接続できる状況になってから、汲み取りの場合が3年以内、既に水洗の場合は法的に遅滞なくとなっているため、1年以内を目安に接続してもらうようにしている。

(委員)

下水道への接続に対する補助はあるか。

(下水道課長)

直接的な補助金はないが、接続する際に銀行で借入したお金に対する利息を補助する制度はある。(無利息融資制度)

(委員)

補助金などがあると接続率が上がるかもしれない。

(下水道課長)

今後の検討とさせていただきます。

(委員)

そもそも下水道が接続できる環境は整っていると認識してよいか。

(下水道課長)

半田市では、30年ほど前から市街化区域内において下水道の計画に基づいて整備を進めてきた。現状、調整区域内や元々下水道を計画していない区域を除いて、95%から96%は整備済みとなっている。

(委員)

下水道の整備状況は、各市町で違ってくるのか。

(下水道課長)

整備開始時期も異なるので、下水道の整備状況は、各市町で違ってくる。半田市は整備率が95%から96%なので知多半島内でもかなり進んでいる。

(委員長)

上水道・下水道の両方に言えることであるが、もっと取組をPRしていく必要がある。

(上水道課長)

上水道のPRに関しては、これまで小学校への出前講座や産業まつりなどで、水道の仕組や防災に関するPRをしてきた。

昨年は新たな取組として、水道事業の中身や経営状況を知ってもらうため、全国で3か所しか訪れないポケモン(シャワーズ)を呼んでの『水の日イベント』を実施した。

当日は1,000人以上の方にご参加いただき、将来を担う子どもたちやその親の世代に上水道の経営状況を知ってもらうことができたことが、満足度の高いイベントの開催に繋がったと考えている。水道料金の改定も控えているので、様々な方法で水道事業をPRしていきたいと思う。

(委員)

半田市では、水道に関する取組や技術を見たり、体験することは可能か。

(上水道課長)

防災訓練の際に給水訓練を行っており、そこで体験していただくとともに、災害時の対応方法などを上水道課の職員自らレクチャーするようなPRをしている。

(委員)

オープンファクトリーを半田商工会議所と産業課で実施しているので、ぜひ水道事業においてもオープンファクトリーを活用していただければと思う。

(委員)

マイレポはんだについて、色々な部署が関係しており、投稿されていると思うが、土木課に対してはどのような依頼があって、どのくらいの件数があるのか。

(土木課長)

依頼内容としては、道路の陥没や側溝蓋の破損が多く、次いでカーブミラー

の向きの修正などが主な内容になる。その他には、道路の渋滞状況に関する投稿がある。件数としては、マイレポはんだ、区長さんから提出される住民要望、電話、メールなど様々な方法で要望が寄せられ、年間 3,000 件ほど対応している状況である。

(委員)

要望を依頼する仕組みは整えられていると感じるが、対応側としては、行政が動いているのか、業者へ委託しているのか、またはシルバー人材センターにお願いしているのか教えてほしい。

(土木課)

要望を受ける作業は土木課の職員が全て行っている。件数が多いため、要望ごとに課題処理表を作成し、管理するようにしている。

その後は、まずは職員が現場を確認し、道路の陥没や側溝蓋の破損など二次的な事故の発生が危惧されるような緊急性の高いものかそうでないものかを判断し、緊急性の高いものから順番に対応するようにしている。その他は、要望を受けたものから順番に対応するようにしている。

現場確認後は、職員が 1 件 1 件見積徴収や積算など発注事務を行っている。また、数年前から市民からの要望にすぐに対応できる部隊として『すぐやる隊』ができ、簡易的な草刈りや側溝清掃などは現在 7 人体制の『すぐやる隊』で迅速に対応している。

(委員)

『すぐやる隊』は無償か。

(土木課長)

無償ではなく、雇用している。

(委員)

第 2 部隊、第 3 部隊を増やすなど民間と連携しながら、すぐやる隊の職員を募集するのはどうか。

(土木課長)

現在は、市役所職員・消防職員の OB が働いており、募集してもなかなか集まらない状況である。草刈りなど技術を持った方はやはり民間の造園業者に流れていくのではないか。

すぐやる隊の職員を増やすことについては、人材面や事故などの安全面の両方を考慮すると難しいと考えている。

(委員)

草刈りを民間と連携して実施するという事は考えているか。

(土木課長)

草刈りなどであれば、その都度発注していると手間も時間もかかるし、場所によっては事業者へ年間委託しているケースもある。

(委員)

高齢者の雇用が伸びてきているものの、働きたくても 1 日フルでは働けないような高齢者の行き場がなくなっているという現状もある。そういった高齢者の受け皿を作れたらと思う。

(土木課長)

基本的に道路上での作業になるので、安全面に不安があるということ、近年は熱中症などの危険性もあるので、土木課では、現実的に厳しいと感じている。

(委員)

公園などではできる可能性があると思うので検討してほしい。

(都市計画課長)

検討させていただく。

(委員長)

市民からの要望の対象が国・県道の場合、県に対する連絡はどのように行っているか。

(土木課長)

その都度、県に要望を伝え、回答をもらうようにして市民に回答している。

(委員)

港湾の部分で「港に親しみを持っている市民の割合」が下がっていることに課題を感じる。産業側からみると、港は仕事をする場所である、大きな重機が動いているエリアに一般の方が入ることは危険であるという感覚を持っている方が多いため、難しさも感じている。エリアを特定して親しみを持てる場所を作っていく必要があるし、運河が港ということ認識していない市民も多いと思う。それを踏まえて今後の取組をどう考えているか。

(都市計画課長)

港の難しい部分として、市が直接工事を実施することができないことが多く、国や県が実施する工事を後押しする形として、地元の事業所の意向などを国まで伝えるという役割を担っている。

港が産業を支える場所であることに重きを置きつつも、港が親しまれる場所になることを目指しているため、港の役割を伝えながら、楽しむイベントを開催する必要があると考えている。

また、「わたしのはんだ発見！風景絵画&フォトコンテスト」を実施し、入賞された作品を「はんだマニア」という冊子で発表する中で、港や半田運河を対象とした「みなと賞」という賞を作り、港や半田運河の魅力を伝えているため、今後も続けていきたいと考えている。

(委員長)

「道路が利用しやすいと思う市民の割合」の成果指標を達成・近づけていくために所管課として構想していることはあるか。

(土木課長)

道路は安心・安全に使用できるものであることが重要だと考えている。その

ため、まずは通学路を重点的に整備している。その中で歩道の設置や路肩の拡幅など、歩行空間を確保することを計画的に実施していきたいと考えている。

あとは、幹線道路を中心とした渋滞対策を県と話し合いながら一つ一つ解消していきたいと考えている。

(委員)

直近で市内の道路のなかで1番の課題はどこになるか。

(土木課長)

やはり衣浦大橋周辺の交通渋滞である。臨海部に工業地帯があるが、朝・夕の時間帯は渋滞でまったく進まないという声を多く聞く。企業、県、警察、半田市が一体となった勉強会を開催し、今後の対策を検討している。また衣浦大橋の架け替え、国道247号の拡幅なども県に要望している。

(委員)

新病院へのアクセス道路について、現状どのような構想を描いているか。

(土木課長)

阿久比川沿いのカーブが多くある阿久比町内を通る道路（一方通行のくねくね道～野崎の交差点）について、現在拡幅工事を実施しており、今年度完成予定である。これは、救急車が通れるように対向車が待機できる幅員を確保する工事を実施している。

(委員長)

この道路の大雨などの災害時の対策はどうなっているか。また、その他の道路整備はどうか。

(土木課長)

大雨にも対応できるように水路の入れ替え・暗渠化する工事を実施しており、今よりも水の流れを良くしていく。また、新病院周辺では、新病院から松堀町の交差点までの区間を歩道整備しており、南部市場から北へ向かう道路の拡幅も実施している。

一般の方は通行できないが、知多半島道路から直接病院にアクセスできる緊急退出路（半田市側・常滑側の両方）も今年度中の完成を目指し実施している。

(委員)

港湾で花火以外において、親しみを感じてもらうための取組を計画していることはあるか。

	<p>(都市計画課長) 現状、具体的な計画はないが、去年の亀崎港へクルーズ船が寄港したような多くの人が集まり、楽しんでもらえるイベントを様々な節目で開催していきたいと考えている。</p> <p>(委員) 港に公園があると思うが、夜間は暗くて少し怖いイメージがあるので、あまり利用している人も少ないのかなと思う。港に親しみを持ってもらうために、市民が港に行こうと思ってもらう何かがあれば、きっと港に行くと思うが、公園整備など計画はあるか。</p> <p>(都市計画課長) みなと公園が市管理の公園になるので、利用される公園になるよう取り組んでいきたいと思う。</p>
<p>(3) 評価</p>	<p>(委員) 〈A 評価〉 総合計画は成果指標に記載される数値でどう評価するのかということになる。半田市が県内や知多半島内でも道路や水道、下水道などのインフラがすごく整備されているということを知ったので、PR の仕方やアンケートの質問の仕方などを工夫したり、取り組んでいる内容を伝えるという部分を強化することで、市民にアピールしてほしい。</p> <p>(委員長) 〈B 評価〉 成果指標に掲げているからには、指標に対して、どうアプローチしていくのか、どんな問題点があるかなどの分析が必要であり、そういった内容を庁内評価の総括部分に記載していただくとより良くなると感じた。</p> <p>(委員) 〈A 評価〉 将来的なことまでしっかり考え、計画が練られている点が評価できると思う。</p> <p>(委員) 〈A 評価〉 評価表の記載だけではわからない様々な取組が実際には行われており、インフラ面で、すごく市民は守られている印象があった。一方で市民が知らないという面もあるので、なかなか出しづらい部分もあるが、取り組んでいることを全面に出していてもいいと思う。</p>

(委員)

〈A 評価〉

成果指標を達成するためにそれぞれの施策において、すぐに成果として表れない部分も地道に取り組んでいる点を評価したいと思う。本日お話を伺うなかで納得する部分も多くあったので、今後も継続した取組を期待している。

(委員)

〈A 評価〉

水道や下水道の整備は、事業所や市民にとっては当たり前の社会基盤になっており、そのありがたさや恩恵は感じにくくなっている。だからこそ、PR を大切にさせていただき、様々な機会を活用してより多くの人に発信して欲しい。

道路の整備は、老朽化などの先を見据えた対応や新たな道路整備、市内各所で発生している道路渋滞に目を向けていただき、対応して欲しい。また、新病院へのアクセス道路についても市民が不安にならないようにしっかりとPRして欲しい。

港湾整備については、国や県との関係のなかで実施していくことなると思うが、衣浦港を構成する各市町と連携して進めて欲しい。親しまれる港づくりでは、港に親しみを持ってもらえるように、半田には港があると知ってもらえるように学校機関などを上手く活用して情報を発信して欲しい。

(委員長)

全体としての総評は、A 評価としてよろしいか。

(全員)

異議なし

(委員長)

最終的な評価の決定は次回 12 月 19 日の会議で行う。